

【目的】本学薬学部における基礎科目のうち、物理系科目に苦手意識を持っている学生が多い傾向にある。その要因として、本学薬学部の入試科目には物理系科目が含まれていないことや、約4割の学生が高校時に物理を全く履修していないという事が考えられる。また、微分積分や指数対数計算、濃度計算など数学的要素が多く、もともと数学があまり得意ではないという声も学生から聞かれる。しかし、薬学の物理系基礎科目の分野では数学的要素が必要になることから、我々は数学の計算能力と、物理分野の基礎知識の向上を目的として、1年生に対して基礎薬学準備演習を実施した。

【方法】形式は演習形式とし、1年次後期以降の講義を受講する上で必要と考えられる領域の計算問題を物理系教員が作成した。演習方法としては、初めに学生自身が自分の基礎学力を把握するために一定時間内に各自で問題を解答させた。その後、理解が不十分な問題を周囲の学生と相談をしながら解き、教員から問題の解説を受けた後、最後に類似問題で理解度の確認をする形式とした。最終回の演習終了後に教材、演習方法などについてアンケート調査を行った。

【結果・考察】アンケート調査の結果から、多くの学生は、高校で既に学習した分野が多かったが、提示された問題は難しいと解答していた。また、演習を行なうことで理解が深まったとの意見が大半を占めたが、満足度は若干低めであった。その理由として、大学入学時での修得度が一様ではなく、既に学習したことのある分野に対しては必要性を感じにくかった学生もおり、演習の方法や内容を改善する余地があると思われた。